

多文化の子ども達に関わる人のための実践アイデア集

今日からいっしょに

改訂版 2(増補)



作成：地球っ子グループ

地球っ子クラブ 2000 ・ 多文化子育ての会 Coconico ・ あそび舎てんきりん

令和 3 年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム(A)

目次

はじめに ～この教材で一番大切な話～	P1
第1章 「おなじって嬉しい!ちがうって楽しい!」を楽しむためのコツ	P3
1-1.「おしゃべり」って大事!	
1-2. やっぱ、「活動」っていい!	
1-3. オンラインの良さを活かそう!	
第2章 多様性をいかした教室活動のアイデア	P11
・いつでもチョコチョコ外国語	
・私たちとつながっている世界	
・いろんな人にインタビュー	
・みんなのカレンダーを作ろう	
第3章 多文化の子ども達が使えワークのアイデア	P18
・おなまえは?	
・あさがお観察シート	
・私だけの「〇〇新聞」	
・「一日一問答ノート」のすすめ	
第4章 オンラインでできる活動のアイデア	P30
・まちがいさがし	
・ピッタリの物、見せて教えて!	
・数字で遊ぼう!	
・おじゃましまーす	
あとがき	P39


はじめに ～この教材で一番大切な話～

「外国ルーツの子どもに、どんな課題や宿題を出せばいいかわからない。」

みなさんも感じたことがあるかもしれません。私たちもこのような悩みの声を、教育委員会をはじめ学校現場の先生方から聞くことがあります。これは、「何の配慮もなく、みんなと同じ宿題を出す」ことに疑問を感じ、先生方が多文化の子どもたちのことを考えてくださっているからでしょう。

それに対応するには、日本語がどれくらいできるのか、日本語でどれくらい学習に取り組めるのかなど把握しなければなりませんし、目の前の子どもの状況によって何を宿題として出せばいいかわ変わってきますので、確かに難しいことかもしれません。

一般的なドリルをそのまま渡したり、時には学年を下げたものを渡したりすることが多いようです。しかしそれでは効果が上がらないだけでなく、学習意欲や思考力など、様々な面から多文化の子どもたちにマイナスの影響を与えることが少なくありません。

また、ただノートのマスですべて埋めればよいというような課題では、考える力がないがしろにされてしまいます。もちろん、先生はただマスを埋めてくることを目的に宿題を出しているわけではないのですが、漢字に意味があることすら分からない子どもに、新出漢字4つを漢字ノートに10回ずつ書かせる宿題は適しているでしょうか。さらに言えば、子どもは何も理解していないし、何も定着していないのに、ノートには  がもらえるのです。

学びというのは、ノートのマスを機械的に埋めることではなく、頭を動かし、わからなかったことがわかったり、もっと知りたくなったりすることだと思います。しかし課題や宿題の選択によっては、「勉強したつもり」にさせてしまったり、考えなくなる癖をつけてしまったりする危険性があるのです。

大事なことは手を動かすことではなく、頭や心を動かすことです。

例えば、道路標識やエコロジーマーク、ピクトグラムなどを家や近所で探してくる宿題であれば、日本語で学習することがまだ難しい子どもでもできますし、その単元の授業に主体的に参加することにもつながります。そのような中から多文化の子どもがいることで教室が豊かな学びの場になるかもしれません。まずその子にあった宿題を考え、意欲的に今後の学習に参加できるようなものが必要だと考えています。

一方、オンラインでの支援についても難しいという声を聞きます。しかし、たとえコロナ禍が収束してもオンラインという学習スタイルは消えることはないでしょう。

子どもたちは私たちが想像する以上の力を持っています。対面でもオンラインでも、どのような形であれ、子どもたちの力を引き出すには、常に私たちの工夫が必要です。

そこで今年度(2021年度)は、いつでも大切になってくる心構えに加え、昨年度作成した『多文化の子ど

も達に関わる人のための実践アイデア集～今日からいっしょに～改訂版』には載せられなかった以下の項目について実践例やアイデアを出し、まとめました。

★多様性をいかした教室活動のアイデア

★多文化の子ども達が使えるワークのアイデア

★オンラインでできる活動のアイデア

私たちは学校での日本語指導にも関わっていますが、主に地域で活動しているグループです。ですから、もしかしたら使おうとする場が違ふかもしれません。でも、もっと言ったら、目の前にいる子どもはもちろん違いますよね。すべて、「これらの活動をそのままやればいい!」というわけではなく、ここに載せているのは、あくまで例です。私たちが日ごろ行っている地域や学校での活動をもとに、

みなさんの目の前にいる多文化の子ども一人ひとりに合わせて作り直してください。

きっとその過程が最も重要で、楽しくやりがいがあることだと思います。

目の前の子どもを思い浮かべ、どんな反応をするのかなと想像し、準備してみてください。しかし私たち大人が活動内容を考えたとしても、子どもたちは私たちの想像を超えたおもしろいことを発見し、自分の発想をぶつけてくるでしょう。

「今日はその内容をやるのではない」と大人が準備した枠の中だけで活動ややりとりを終わらせるのではもったいない!場合によってはこちらが準備したものを捨てる覚悟も必要です。私たちの用意した活動の中で、子どもの内側から湧いてきた知的好奇心を育み、大いにいかし活動を作っていくことが大事だと考えています。

「多様性を楽しむ力」をまず私たちが身に付けること。そして「子どもの力を信じる」こと。

私たちはこれを大切に活動しています。多文化の子どもたちに関わる私たちが、それぞれの立場で何ができるかを考え、“いっしょに” 試行錯誤していきましょう。

2022年3月

地球っ子グループ

地球っ子クラブ 2000

多文化子育ての Coconico

あそび捨てんきりん

第 1 章

「おなじって嬉しい!ちがうって楽しい!」を楽しむためのコツ

この教材を作成していく上で、私たち地球っ子グループ内でたくさんの意見交換をしてきました。その中で、改めて気づいた大切な点がいくつかあります。

1-1.「おしゃべり」って大事!

正解や一つの答えを出すことを目的に最短距離のやり取りをするのではなく、なぜそう考えたのか、それはどうということかなどやりとりをすることで、子ども達は思考を深め、言葉を豊かにしていくのだと考えています。そのやりとりの際には、会話の広げ方が大事になってきます。目の前の子どもの興味関心をすくいあげ、学びを深めていくための問いかけが大事です。

みなさんは多文化の子ども達と“意味のある”おしゃべりを続けられますか?

おしゃべりをする時には、一対一でじっくり話すことが必要な時もありますが、複数名でわいわい話す方が、会話が広がることもあります。私たちの活動では、グループでおしゃべりする時間を大切にしています。それぞれに日本語力の違いがあっても、他の人の言い方をまねたり、言葉を繰り返し聞いたりして理解し、自分でも言うことができるようになります。また自分とは違った視点や発想で互いに刺激を受け、話が発展し広がっていくでしょう。

おしゃべりの際、笑顔や頷き、相槌が大事なことはもちろん、場合によっては、盛り上げ方や声掛けにもコツがあります。対面でもオンラインでも同じですが、他の人の発表を聞いてほしい時、注意をひける一言をどのように声掛けしますか?例えば、「静かにしてください」「〇〇さんが発表します。黙って聞きましょう」「こっちを見てください」などが一般的でしょうか。しかし、それよりも、「まさかの?!」「それは無理でしょ〜」「みんな、できると思う?」のような声掛けをするほうが、子ども達が発表者に意識を向け、子どもたちが見たい気持ちになり、効果的です。

「ふん」「そっか」「すごいね」で終わる会話、していませんか。子どものやる気を引き出すような声掛けの言葉、いくつか考えられますか?もっと楽しくおしゃべりができるコツ、身に付けていきましょう!

自由な会話から学びにつなげる

子どもの何気ない一言をスタートに、自由で楽しい会話を繰り広げましょう。

準備するものは特にありません。こちらが準備するという発想を変えてみましょう。子どもの方から投げられた言葉のボールを受け止め、その子にとって、一番有効な返球ができるように、目と耳と心をスタンバイしておきましょう。子どもの思考の流れに流されましょう。大人も子どもも複数いると、話がはずみます。子どもたちの豊かな発想にこちらが驚かされることでしょう。

オンラインでは、適切な資料をその場で選び出し、子どもたちと共有することができます。子どもたちが、今、興味を持っていることにリアルタイムで対応できる良さを活かし、「資料+生活に結びついた大人との会話」を通して、教科学習の基礎ともなり、実感のある学びに繋がります。

<ある日の例>



今日、いいことあったよ。…プレルボール、楽しかった!



プレルボールって? バレーボールと違うの?
どんな遊び? 教えて!

教えてもらったこと プレルボールとは?

地面にぶつかって跳ねたボールをグーで打つ。
6人チームで、1回3人ずつ、チーム対抗。
チームの他の人にボールを回す。
リーダーがいる。ほかにも、役割があるらしい。

展開…「バスケット」「サッカー」など、ボールを使うスポーツの名前がいろいろあがる。

ボールの色は何色なの?



黄色。よく見えるから

そうかあ、じゃあサッカーボールも黄色?



サッカーボールは白と黒だよ~

ドッチボールは何色? Yさんのころは?



茶色だったよ
1947年生まれで小学生のころ。



ぼくは〇〇年生まれ(うまく言えない)



中国語でなんて言うの? 教えて。



Y先生は「スーリン HOW」(40後)

教えてもらったこと 「何年生まれ?」と聞かれたら

中国語ではこう言うそうです。



日本では、おおよその年齢を言う時に40歳代と言います。中国では生まれた年で、1970年代生まれは「70後(チーリン HOW)」という言い方をすることを教えてもらいました。

展開・・・「あっ!雪が降って来た!(栃木)」「ここは降ってない(さいたま市)」
※オンラインなので、いろんな地域から参加している。

この間、雪が降った時は、校庭の真ん中に
4年生全員で一個、雪だるまを作ったよ。

ぼくの学校は外に出ちゃダメだって。

雪が氷になって、滑りやすかった。

雪かきした?
しなかった。

雪かきはお父さんがやってたなあ～
子どもはしなかった。遊んでただけ。(新潟)

私の小学校では、教室に
石炭のストーブがあって石炭係がいたよ。
みんなストーブの周りに集まって、
手袋を乾かしたりしてたなあ。(秋田)

雪がたくさん降るところはどこ?
日本地図を共有

秋田
中国
新潟
静岡

学校に暖房はなかった。
スーリンハウだからね!

展開・・・「今日の天気予報に小さい雪マークがあったよ!」「天気予報見るのが好き。一日に3回くらい見る。」
「今日は見た?」「ぼく、見たことないなあ。」「じゃあ、見てみようか。」

今日の天気 1月27日(木)

時刻	0時	3時	6時	9時	12時	15時	18時
天気							
気温(℃)	0	-1	1	4	8	7	3
湿度(%)	100	94	88	51	33	33	44
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	0
風向 風速(m/s)	南 1	西南西 1	静穏 0	北北西 2	北西 3	北西 3	北北西 2

天気予報のサイトを共有

「3とか2っていうのは何?」

「風の強さ。風速3メートルとか。『静穏』っていうのもあるね。」

「3メートルって強いのか?」

「風速が1メートル強くなると体で感じる温度が1度下がるんだって。」

「じゃあ、風速3で、気温が7度でしょ。だから4度に感じるってこと?」

「北って書いてあるけど、北から吹く風?北
に向かって吹く風?」

「どっちだと思う?」「これ見ると北が多い
ね。」

「冬だから冷たい風が来るよね、やっぱり、
北から吹く風という意味じゃない?」

1-2. やっぱり、「活動」っていい!

座ってやることだけが勉強ではありません。オンラインでも、対面でも、手だけではなく、頭も心も動かすことが大事です。手だけ動かしていれば勉強しているのだと、子どもに思い込ませてしまうこと、大人が思い込んでしまうことは避けたいですね。

活動では、あるテーマや狙いを念頭に置き、活動内容を考えていくことになると思いますが、肝心なのは「入り方」です。なんとなくおしゃべりをしていたら自然とその活動内容が始まっていた…というのが理想かもしれません。イメージとしては、落語の枕みたいなものですね。子どもたちを活動の世界に誘い込むには、ちょうどいい絵本や自分の体験談など、こちらの引き出しを増やしていく必要があります。

そして活動内容を考える際には、すべてをきっちりと決めすぎず「入り方」と「大枠」だけ決め、あとは参加者の反応で変更していく柔軟さも大事でしょう。「こう活動を展開していく!」と細かく決めすぎると、参加者の自由な発言が拾えません。参加者の反応より、自分の考えた流れに発言をコントロールしてしまいがちです。イメージした活動を完璧にこなすことよりも、大事なのは目の前の子どもたちとの協働的で創造的なやりとりです。

例えばイベントの時でも、すべてこちらで準備し、外国出身の人をゲストとして迎えるのではなく、一緒に企画から考えることで、私たちの想像を超える発想やアイデアが飛び出し、大活躍してくれます。

地域のイベントで大活躍!



バングラディッシュ、ベトナム、手話のコーナーで、自分たちの持つ言葉や遊びの魅力を、来てくれたお客さんに紹介したり一緒に遊んだりしました。子どもたちは生き生きとみんなを楽しませてくれました。「ベンガル文字?初めて見た!どっちから書くの?」「ベトナムの石蹴り、日本とおなじ!今の若い人は知らないよね。」「手話って初めて!でも通じたあ!」など、参加者から喜びの声が聞かれました。

実感! ~おなじって嬉しい!ちがうって楽しい!~

ベンガル文字って、
どっちから書くのかな?



折り紙でしおり作り。
手話でおしえてもらったよ。



バングラディッシュと、ベトナムの石けり。
日本の石けりと同じ? でもちょっと違う!

手話って楽しい!

「同じ地域に住む外国の人と友達になれた」「みんなと遊んだり話したり、楽しい」「お母さん、かっこいい!」「ありがとうってたくさん言われたよ」「この文字知ってるの、私だけ。すごい?」このイベントではこういう声が聞かれました。普段の活動でも年齢や国籍問わず、みんなで楽しめます。やっぱり活動って素晴らしい!

1-3. オンラインの良さを活かそう！

子ども達の学びを止めないためにもオンラインでの学習はなくならないでしょう。オンラインは、対面に比べやりにくい面がありますが、一方いい面もあります。その利点を活かして、楽しく学べるように工夫しましょう。

(1)リアルなインフォメーションギャップ

同じ場所で隣に座っていないからこそ、「子ども達にいろいろ教えてもらう」必要があります。ただカメラ越しに教科書やプリントを見せてもらって、漢字の読み方や教科書の内容をこちらが確認するのは簡単ですが、「大人が教えてもらうこと」は、子ども達が自ら読み直したり、説明したりするチャンスにつながります。

対面で行っているのであれば、「ここに書いてあるでしょ、先生、自分で読んでよ」となるところを、「あれ、そのおじいさん、そのあとどうするんだっけ?」「あれ、あと誰かお話に出てきたよね?」など、こちらの手元に教科書がないことを理由に、子どもたちに読み直してもらったり、お話してもらったりしながら、内容が理解できているかどうかを“わざとらしくなく”やり取りの中で確認できます。

子どもたちは試されるのは大嫌い。オンラインでは、純粹に子どもたちに教えてもらわなければ困るという気持ちを持って臨むと、子どもたちは喜んで教えてくれます。

子どもが先生、大人が生徒

漢字は、意味のある文字です。意味のある文字に出会ったことがない非漢字圏の子どもには、読み方や書き方を教える前に、漢字には意味がある楽しさを伝える工夫が必要です。ドリルを渡して練習させても、単なる作業になって効果が上がらないだけでなく、漢字嫌いになってしまうこともあります。

こんな時、インフォメーションギャップを利用し、立場の逆転を演出してみるのも一手です。「今日は〇〇ちゃんが先生!」子どもたちの積極的な姿勢を引き出す呪文です。大人は教えてもらう達人になってください。漢字の習得、子どもたちの伝える力、内容を理解しながら読む力、さらには、教科を理解することなどにもつながります。クイズに出してもらうのも有効です。

<インフォメーションギャップで漢字> 目で見た漢字を言葉で説明する力をつける



「カイ〇」って何て読むの? 「カイ」はわかるけど次の漢字がわからない。

さて、こういう時、どうしますか?



「カイ」は社会の「会」

えっ、「カイ」ってどんな「カイ」?



どこに書いてあるの? ほかに何か書いてある?



他にもいろんな質問ができますね。すぐに答えを言わないでくださいね。そして……

私たち、当てるからクイズにして! 横棒とかある?



あ、横の棒が3本あります。その上に斜めが……2つある。「言う」っていう字もある。

あ、そのヒント、わかった! 左にあるでしょ。「ごんべん」だね!



そうそう、「ごんべん」で、横の棒が3本あって……

わかった! 会議だ! それどこに書いてあるの?



結局、ビジネス手帳のシールでした。ほかに、「給料日」「出張」などなど。
「先生にあげよう!」ということになりました。

こちらの教えたくなる気持ちを抑えて、こんなやりとりを続けていると、だんだん子どもたちは文字の説明がうまくなります。「へん」や「かんむり」など、漢字を分解して認識する力も自然とできてきます。漢字が使われている文に常に注目することで、漢字を意味で捉えるようになってきました。

<インフォメーションギャップで漢字> 問題を出してもらい、子どもが先生になる



今日はテストの問題です。今から言う漢字を当ててください。つくりは「見る」で、左に…

子どもは書かないで一生懸命説明します。

わからないなあ、全部で何文字？



2

ああ、漢字2文字の熟語ね。



このように繰り返していると、2文字の熟語とか3文字の熟語とかの説明もできるようになります。

で、2番目の字は？



さんずいがあって、貝があって、一番右は「リ」みたいな字。

あ、わかったかも。じゃあ、私が書いてみるから、Aちゃんも書いてね。正しいかどうか見てください。



せーの



正解は「夜空の星を観測する」でした。バングラディッシュで船にのった時のことも話してくれました。



テストの時は思わなかったけど、今、書いてたらバングラディッシュのおばあちゃんの家を思い出した。

例文をそのまま読んだり書いたりするだけでなく、周辺の話をしながらか進めることは大事です。
その結果、漢字を見ればイメージが浮かぶことになり、漢字の定着につながります。

自分でよく見て、形を説明した漢字なら、何も考えずに繰り返し書くだけよりも記憶に残るのではないのでしょうか。漢字が苦手だからといって漢字を書かせると、もっと嫌いになります。漢字が苦手で、まだまだひらがなで書いてしまう子どもにも「ひらがなだと意味がわからないから、漢字を教えてください」「お〜わかった！ありがとう！」というような作戦がオンラインなら自然な形でできます。

(2) ブレイクアウトルームの活用

ZOOM のブレイクアウトルームを使用すると、それぞれのグループで何をやっているのか見ることも声を聞くこともできません。しかし、これをうまく活用し、子どもに合わせた内容を進めることができます。

参加者全員で同じテーマの活動をする時にでも、子ども達の状況にあったグループ分けをすることによって、グループ内で行う活動内容を変えていきます。例えば、全体のテーマに沿って、あるグループは調べ学習を、あるグループはテーマにそった絵を描いたり、折り紙で作品を作ったりすることが可能です。またグループに分かれ子ども達にクイズを考えてもらう際には、グループ内でどんな問題がいいか相談することもできます。発表やみんなへのクイズが、自分だけが楽しいものではなく、参加者全員が楽しめるようなクイズになるように軌道修正することも時には必要でしょう。ブレイクアウトルームは、全体で発表したいこと、披露したいことを検討したり練習したりする場にもなります。

<ある日の例>

準備するものは、A4の紙を数枚。これで紙飛行機を作る活動です。みんなで一緒にできることもあります。また、学年、日本語レベル、知的好奇心に合わせて、変化することもできます。

「飛行機に乗ったことある?」「どこに行ったの?」など、話をしたり、旅行に行ったときの写真を見たりして、自然に飛行機につながる会話で下準備をします。それぞれの部屋で紙飛行機を作り、後で発表してくださいと伝え、グループ(オンラインのときはブレイクアウトルーム)に分かれます。

例えば、初級のレベルであれば、「半分」「折る」「見て」「見せて」「こうやって…」「できた?」「そうそう」「じょうず」などの短い言葉の繰り返しでやり取りをし、飛行機を完成させます。飛ばしてみ、「すごい!」「もう一度!」などと自然に言葉が出るでしょう。好きな色で絵をかくたりしながら、「色」や「言葉」を繰り返し語りかけ、いくつかの言葉を習得しながら完成できるはずです。

学校の勉強に結び付けるのであれば、ただ「半分に折る」と言うのではなく、「10センチのところで折る」と単位を関係づけて指示するのも効果的でしょう。「長い辺を中心の線に合わせて」「ここに三角形ができるように」「この角度が45度になるように」など、図形の言葉をふんだんに使ってとりくみましょう。できた飛行機を飛ばして、「1メートル70センチ」「2メートル10センチ」「先生方が40センチ遠く飛んだね。」「じゃあ、もう1回」「2メートル30センチ」「さっきより60センチも遠く飛んだね」などと、苦手なセンチメートルの計算も自然に楽しみながらできます。表を書いて、記録をつけてもいいと思います。

さらにレベルアップ。調べて作る場合でも、すぐに「紙飛行機の作り方」とインターネットで入力してしまっただけでは、つまらないですね。まずは、おしゃべりです。「どんな飛行機がある?」「速い飛行機ってどんな形だろう?」「軽い方がいい?」「紙のサイズは、どうする?半分?横?縦?」など、自分で考えるクセをつけましょう。自分で思うようにやってみて、その後、作り方を調べてみてもいいですね。いろんな大きさ、形を作って、比べてみましょう。興味があれば、尾翼や機体、コックピットなどの言葉を入れてもいいですし、空気抵抗や落下などの言葉を使っても構いません。この時は、意味が分からなくても、「飛行機と関係のある言葉」ということが、頭の片隅にあるだけでも今後の学習への理解が変わってきます。

ブレイクアウト終了後、最後に、全体で飛行機を見せ合います。「工夫したところ」など発表をするのもいいでしょう。一緒に飛ばして、楽しく遊んで終了です。「遊んだ!!」と感じて終わることも大切です。「さて、勉強しましょう!」とは決して言わず、子どもが知らない間に学んでいる、遊んでいただけなのに力になっている、そういう活動を常に意識したいものです。

第2章 多様性をいかした教室活動のアイデア

この章では、学校や地域の教室で、多文化の子どもも日本の子どもも先生も、みんなで楽しめる活動のアイデアを紹介します。多文化の子どもがいるからこそできる活動ですが、この活動をきっかけに、国やルーツの違いではなく、すべての子が多様であることに気づきます。一人ひとりの子の良さをいかすことができますよ。

いつでもチョコチョコ外国語

多文化の子がいる教室には私たちが知らない言語や文化背景があります。その豊さを無駄にせず、適切に、その子の言語を取り入れましょう。常に意識しておくことで、あらゆる場面でチョコチョコと楽しむことができます。

【活動の流れ】

多文化の子どもが自分の母語に抵抗がある場合は、この活動は向きません。

また、母語を知らなかったり、忘れていたりするなら、家で聞いてきてもらったり、みんなで調べて家で確認してもらうなど、こちらが知りたいという姿勢を常にもちましょう。

自分のクラスだけでなく、他のクラスにも聞きにいきますね。日本の子の場合は、親の方言で同じ活動をすることもできます。先生の方言があったら最高に盛り上がりますね。

1. 日常のあらゆる場面で、「〇〇は、△△語でなんていうの?」「〇〇は△△でどうやるの?」と聞く。

2. 「へー。じゃあ、今日は△△語でやってみよう!」とすぐに使う。

例)

「じゃんけんは、インドネシアでどうやるの?」→「今日の給食おかわりじゃんけんは、インドネシア流でやろう!」

「1, 2, 3は、中国語でなんていうの?」→「じゃあ、今日のグループ分けは中国語でやってみよう!」

「応援するときは、フィリピンではなんていうの?」→「じゃあ、■■さんの応援のときは、そう言おう!」

【応用・発展】

運動会で子どもが走っているときに、例えば「加油!」と応援されたら、その子も、見に来たご両親も嬉しいでしょう。また、他のクラスも「やってみたい!」と自分のクラスの外国ルーツの子に聞くかもしれませんし、いないクラスは「うちのクラスにも来てほしいなー」という気持ちになると思います。その子がいることで、クラスの一体感、チームワーク、絆が強くなる!そんな活動にするためには、先生の声掛け、時には演技力も必要です。知っていても「ベトナムでは、〇〇だろ?」とは決して言わず、時間がかかっても、その子に教えてもらうという姿勢が必須です。

私たちとつながっている世界

地元の農産物や名産を調べたり、全国の特産を知ったりする授業は多くの学校で行われると思います。ただ、そこで終わらずに、外国では、どんなものがつくられて日本に来ているのか調べてみませんか。

「自分たちの日常は、こんなに外国とつながっているんだ」と気づくことができ、さらに外国にルーツを持つ友達の国について知るきっかけにもなります。わたしたちの生活にあるものが、たくさん世界とつながっていることを知り、外国は特別ではなく身近なものだと気づくことができたらいいですね。

【用意するもの】

地図（地図は、活動の人数や規模に応じてサイズや枚数を変えてください。）

【活動の流れ】

1 回だけの活動にするのではなく、継続して探していくことで、いつでも世界を知ろうという意識が育ちます。

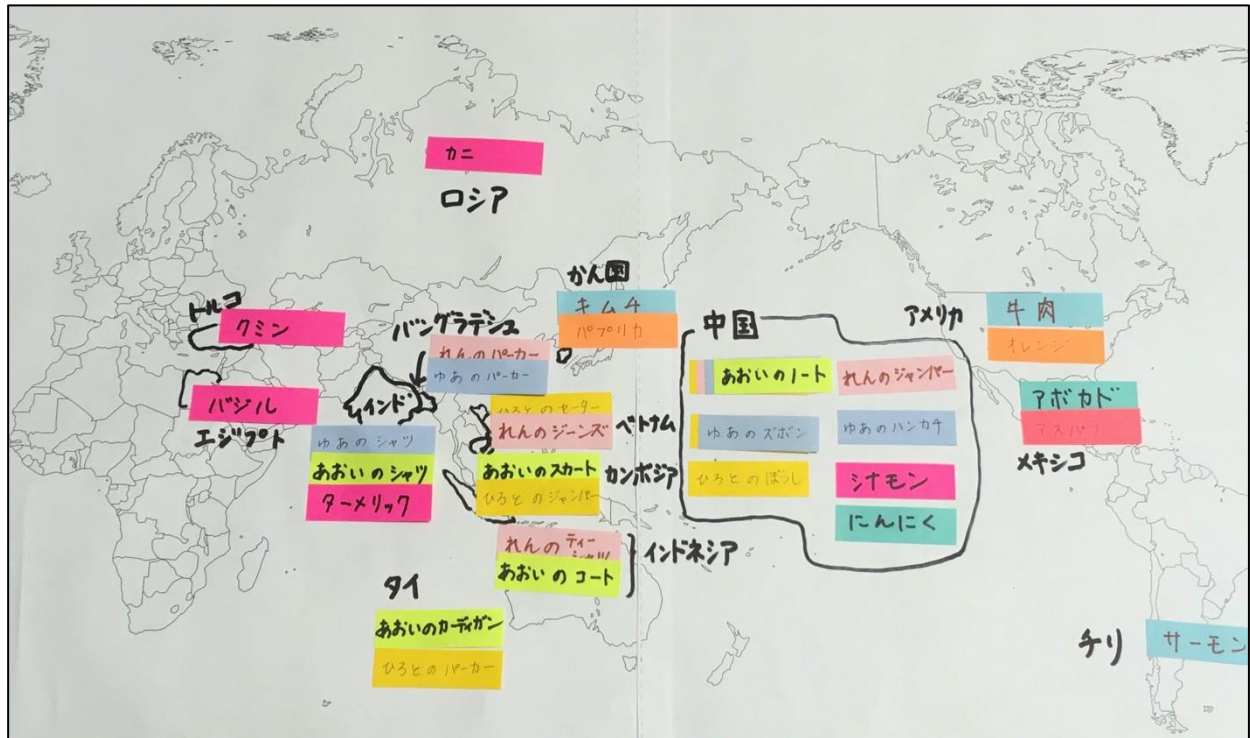
地図にあるすべての国の製品を探すことを目指さないでください。同じ国が何回も見つかるかもしれませんが、「また〇〇の国??」という反応ではなく、その国との結びつきを感じられるような声掛けと雰囲気づくりが大切です。

1. 自分の服のタグを見て、どこで作られたか調べる。
2. 地図の中からその場所（県・国）を探し、付箋に所有者の名前と製品名を書いて貼る。
例「〇〇（名前）のパーカー」
同じ製品の付箋が同じ場所（県・国）にあった場合は、重ねて貼る。
3. ノートや文房具、教室の教具など、教室にあるものに製造国が書いてないか調べ、見つけたら付箋に書き地図に貼る。
4. ある程度付箋が貼られた地図は壁に貼るなどし、継続的に調べて付箋を貼っていくようにする。
5. 朝の会などのちょっとした時間に気づいたことなどを発表する機会を作る。

例「私たちのグループはみんな中国で作られたＴシャツを持っていました。」

付箋を貼る前にクイズを作って出題するのも盛り上がります。

例「僕はサーモンを調べてきました。これはどこから来たと思いますか？ヒントは…」



白地図「ちびむすドリル」より引用

<https://happyilac.net/sy-sekaitizu-s3.html>

【応用・発展】

- ・家にあるものや食材などがどこから来たかを調べる宿題を出すこともできます。
- ・自分の家族の生まれた所を聞いて、そこに「〇〇（名前）のお母さん」などと書いた付箋を貼ったり、読んだ本の作者の国に「著者名と作品名」を書いたり、好きなスポーツ選手の出身国を書いたりしても楽しいですよ。
- ・地図は世界地図に限らず、アジアの地図や、例えばインドの地図など、扱う内容によって適切な地図を選んでください。地域の地図を使って、「近所で見つけた世界」という内容に発展することもできますね。

どう発展させますか？ 目の前の人に合わせて考えてみましょう。

いろんな人にインタビュー

テーマに沿って色々な人に質問します。たくさんの人と会話を楽しみ、インタビューの中で子どもたちが多様性に気づき、答えが色々あって楽しいことを体験します。

【用意するもの】

- ・インタビューシート
- ・筆記用具



【活動の流れ】

テーマを決めて校内のいろいろな人にインタビューします。テーマはいろいろな答えが期待できる身近なものにしましょう。（「今までに飼ったことのある生き物は？」「昨日食べた晩御飯は？」など）

学活の時間などを利用し、クラス全員で行うと楽しいです。

1. テーマをひとつ決める。（例「昨日食べた晩御飯は？」）
2. 校内のたくさんの人にインタビューする（校長・司書さん・相談員さん・友だちなど）。
話の中でおもしろい情報を聞きだし、メモする。時間になったら戻ってくる。
子どもの力に応じて最初はペアやグループで行ってもよい。

インタビューシート

名前 インタビューの相手	昨日の晩御飯は？	おもしろ情報
警備員 田中さん	やきそば	田中さんのやきそばには、ソーセージが入っているそうだ！
内藤さん	カレー	今週 3 回目、いつも甘口
山田先生	カレー	インドカレーのお店に行ったら激辛で水をがぶ飲み
メリーさん	ミーゴレン	インドネシアのやきそばをミーゴレンって言う。
相談員 石川さん	ピザ	ピザでも、いつでも味噌汁!!
佐藤さん	とんかつ	とんかつにかけるのはマヨネーズ

3. 全員戻ったら発表する。おもしろエピソードからクイズにしてもいい。

例 「メリーさんが食べたミーゴレンは、インドネシアの料理です。日本にもあります。なんでしょうか。」

「とんかつにマヨネーズをかけて食べるのは誰でしょうか。」

「一番多かった答えは何でしょうか。①カレー、②やきそば、③ピザ」

【子どもの反応】

- ・いつも話さない子どもインタビューを通して、楽しく話せ、違いを楽しめる機会になりました。
- ・はじめは「おもしろ情報ありますか？」と聞いていた子どもも、インタビューを重ねるごとに、いろいろな質問ができるようになって、おもしろ情報にたどり着けるようになります。

【応用・発展】

- ・どんなテーマでインタビューしてみたいか、みんなで考えるのもおもしろいでしょう。
- テーマ次第で話題が広がったり、ステレオタイプになったりするので、テーマを考えるときにはコツが必要です。

どう発展させますか？目の前の人に合わせて考えてみましょう。

みんなのカレンダーを作ろう

自分の母語・母文化を大切に、友達の母語・母文化も大切にしながら、多様性を楽しむ活動です。曜日の言い方や書き方など、外国出身のママや子ども達に教えてもらいましょう。ここで挙げるのは地域の教室での実践例で、一人ひとりが1か月分のカレンダーを担当し、カレンダーとして完成させました。学校の教室活動ではどうアレンジできるか考えてみてください。

【用意するもの】

- ・ホワイトボード、ペン（または黒板、チョーク）
- ・カレンダーの雛型
- ・カラーペン、色鉛筆など

【活動の流れ】

その日に参加する全員の母語を紹介してもらいます。母語を忘れてしまったり、マイナスの感情を抱いたりしている子どもにはしつこく聞かないようにしましょう。

言語や文化に優劣はありません。すべての言語や文化を楽しみましょう。

1. 曜日の言い方の紹介

- ① 日本語で
- ② 参加者のことばで 「曜日の言い方、どう書くの？」ホワイトボードに書いてもらいましょう！



2. みんなで1つのカレンダーを作ることの説明、担当する月を決める。

3. 各自、自分が担当する月のカレンダーを書く。

「これは何の絵?」「私の国のお正月で食べる料理だよ」

「月曜日の書き方、大きく書いて教えて」

大人がカレンダーを書くのに一生懸命になりすぎないように気を付けましょう。何の絵を描いているのか子どもたちに尋ねたり、母語や母文化について興味をもって聞いたり、たくさん話しましょう。



4. 並べて鑑賞します。



「ベトナム語でどう書くかママに教えてもらったよ」

「私の国では金曜日から始まります」

【みんなの反応】

- ・家で、母語を聞いたり話したりする機会はありますが、書くチャンスはなかなかありません。外国出身のお母さんが母語の書き方を教えようとしても、家の中で勉強するのはなかなか難しいそうです。でも、このような時には子どもたちはママに書き方を聞いて、それを私たちに教えてくれます。
- ・自分のルーツのあることばで曜日を書く子もいれば、いろいろなことばを合わせて書く子もいます。どうやって書けばいいかわからない時には、わかる人に質問しますし、自分が教えてあげることもあります。学びあいですね。
- ・みんなで作ったカレンダーはどこにも売っていない、私たちだけの特別なカレンダーです。仲間意識も生まれますし、いろいろなことばがあるって素敵だなと純粋に思えます。

【応用・発展】

- ・後日、カレンダーとして配布します。

できあがったカレンダーにみんなの誕生日を書き足してもいいですね。

- ・学校で行う際には、あらかじめ自分のルーツがある国ではどのように曜日を表記するのか聞いてきてもらい、クラスメイトに紹介するという方法もあるかもしれません。なんでも先生がやってしまうより、その子への特別な宿題となり、やる気をだしてくれるかもしれません。

どう発展させますか？ 目の前の人に合わせて考えてみましょう。

- ・教室の人数が35人だったら、どうアレンジしますか？

第3章 多文化の子ども達が使えるワークのアイデア

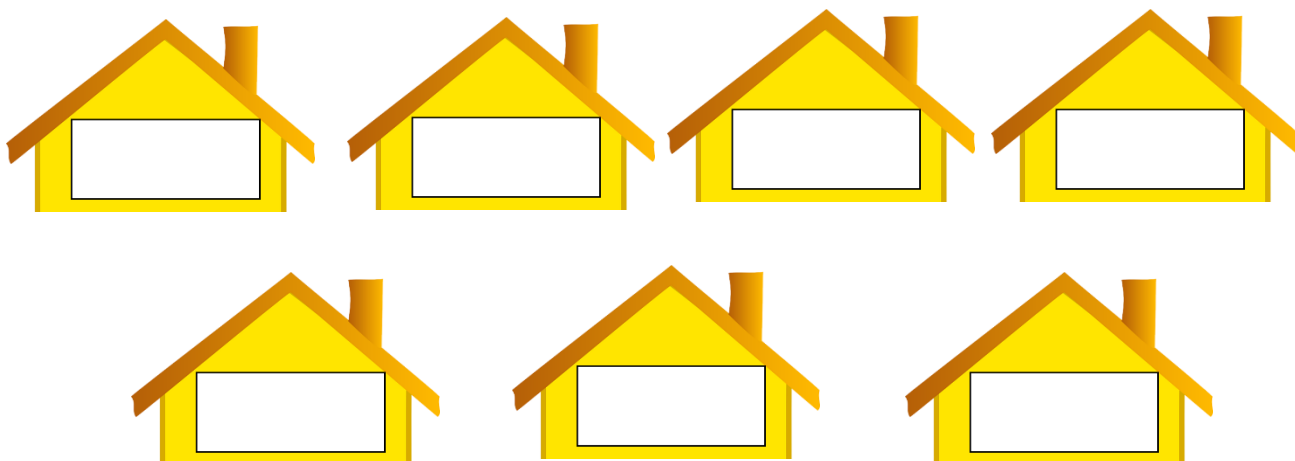
おなまえは？

1. 友だちに名前を聞きます。
2. 漢字を教えてもらいます。
3. 下の名札に書きます。

木 田 山 川 林
森 石 本 口 村
大 中 小 上 下

1. 近所の家の表札を見ます。
2. 左の漢字から探します。
3. 下の家の表札に書きます。

※入っていない漢字でもいいよ。



【ねらい】

子どもにとって、意味も分からない漢字を繰り返し書くことは、苦痛な作業です。また、漢字は苦手意識がつきやすく、一度嫌いになると、なかなか克服できず、ずっと苦手なままの子も多いのが事実です。

また、1年生の漢字から、順番に学習をはじめても、なかなか自分の学年の漢字まで追いつきません。かといって、覚えなくてよいという訳でもありません。1年生の漢字は、人の名前に多く使われていることに注目し、漢字を見つけることを楽しみ、漢字が好きになると、漢字はどんどん入っていきますよ。

また、漢字は学年ごとの順番に覚える必要はありません。自分の興味のある友達の名前や、好きなことに関する漢字など、その子にとって意味があれば、漢字にも興味が出てくるでしょう。

座って書くだけでなく、身体を動かすこともこのワークのポイントです。

【応用・発展】

「さんずい」の漢字をさがせ!!

読めなくても、かまいません。さんずいのある文章を、本や身の回りの物から探して書いていきます。

「深い湖に・・・」「海で泳ぐときは、波に流されないように・・・」

こんなところから、さんずいの共通点に、自分で気が付くと、とても漢字は楽しいものです。

漢字の意味が分からない子の間違いは、

「足た、ともだちが木ます。(明日、友達が来ます)」「お見せへ、生きます。(お店へ行きます)」などです。文字に、意味があることが分かっていません。ただ訂正するだけでは意味がありません。

漢字が分かっている子の間違いは、

「おにぎりの中味(中身)」「目がね(眼鏡)」

間違いは訂正しつつも、大いにほめてあげましょう!!

音だけでなく、意味があるという「漢字」は、世界でもとても珍しい文字です。一つの漢字の音・訓の読み方を教えるだけでなく、楽しい活動を通して、音・訓の意味と違いに気がつき、漢字が好きになると、漢字はピクトグラムのように見え、漢字大好きな子になります!!

あさがお観察シート

あさがおなど、植物観察の目的は、正しい日本語の文章を書くことではありません。しかし、観察シートは文章で書くことが求められるため、外国ルーツの子どもは、しっかり観察し気が付いたことがあっても、すべてシートに書き込めないことがあります。

子どもたちが観察し気づいたことをシートに残し、楽しく生活や理科の授業に参加することができるように、シートを少し工夫してください。

●使い方

先生が子どもに見てほしいポイントはどこですか？

子どもが興味を持って観察したくなるにはどんな仕掛けがあったらいいでしょうか。

いつも同じシートを使うのではなく、その日に観察してもらいたい内容、予想してもらいたい内容に合わせてシートを変えると、書きやすくなるのではないのでしょうか。

例えば、

「よそうシート」種を植える前にどんな花が咲くか、いつ咲くかなどを考える

「カレンダーシート」植えた日や水をやった日、芽が出た日などを書き込む

「いろシート」どの色に近いかを見る

「かんさつシート」咲いた花や葉、茎、蕾などを細かく観察する

1. 子どもに見て欲しいポイントや気づきのヒントなどを先生が書き込んで、シートを作ります。
2. 子どもにシートを渡す時、「日本語でもいいし、絵や丸、星印などでも OK」だということを伝えましょう。
3. 子どもから受け取ったシートに、先生がコメントを記入します。
先生からのコメントはとっても大事！子どものモチベーションがあがりますよ。

●大切なポイント


日本語の間違いを直すことは大切ではありません。

あさがおをよく見ることができたかどうかを重視します。絵や丸から、子どもが気づいたことや伝えたいことを先生が受け止めて、よかったところを具体的にほめましょう。前よりもできることが増えているはずです。

【よそうシート:例】

どんなはながさくとおもう?

吹き出しに観察してほしいヒントを先生が書きこんでください。




オレンジいろのきれいなはなだね! どんなはながさくのかな。

いつさくかな?

カレンダーには、実際の月に合った数字を書きます。

はなのいろはなにいろ?

子どもの答えは日本語でもいいし、絵や丸、星印などでもOKです。



Aくんのよそうは7月7日ですね。いつさくのかたのしみだね!

まだ上手く日本語が書けない場合は、先生がコメントでさりげなく正しい文を伝えます。

【カレンダーシート:例】

いつたねをうえましたか?

6月2022

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7月2022

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						


カレンダーには、実際の日付を書きます。

8月2022

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

【いろシート:例】

はなのいろはどれ?



はなのいろはピンクだね。おともだちはどんないろがありましたか?

【かんさつシート:例】

きょうのあさがおをかこう



大きさは?

おおきなあさがおい! 2つさきましたね。つぼみもあるかな?

はな

はなはAくんのてのひらおなじ大きさなんだね。10cmくらいかな。

はっぱ

えをかこう!

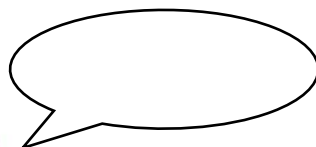
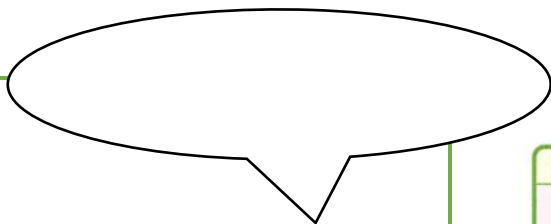
むしがはっぱをたべちゃったかな? よくみてかきました!

“葉っぱに穴が空いている”“つるに毛がある”など子どもの発見に気付いて、褒めてあげてください。

実際に測った長さや、同じ大きさの物の絵、単なる丸でもOK!

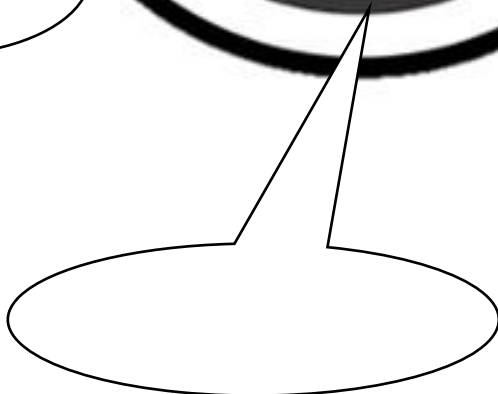
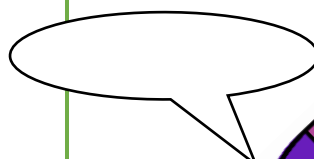
●どんな質問が考えられますか？

Large empty rectangular box for writing questions.



月

日	月	火	水	木	金	土

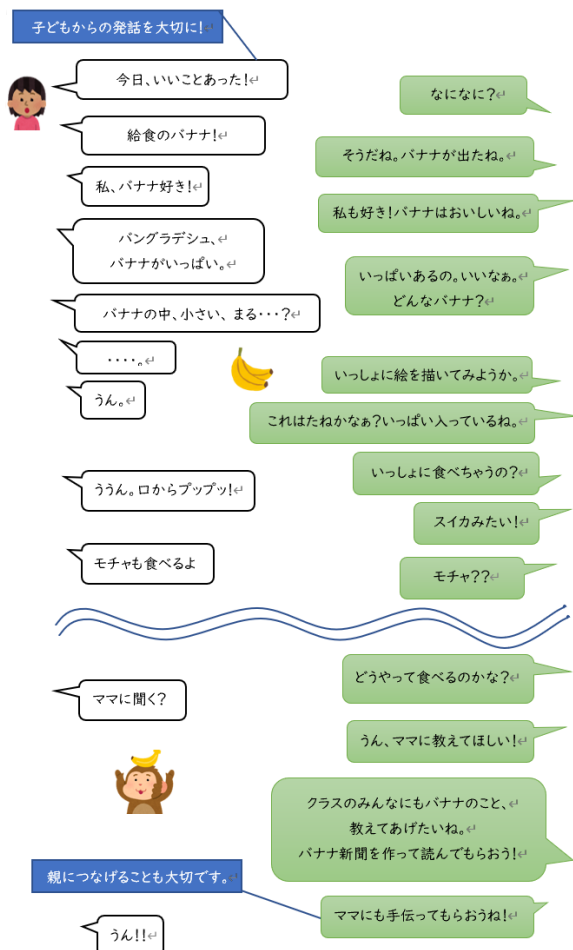


わたしだけの「〇〇新聞」

			月	日	()	新聞	なまえ

【ねらい】

自分の生活や文化について関心を持ち、自分だけが知っていることをみんなに伝える新聞を作ります。発表や掲示をすることでクラスのみんが興味を持ち、自分の国や文化に誇りを持つきっかけになります。



【活動の流れ】

1. たくさん話そう。

国のことにこだわらず、子どもの言葉を受け止め、その子の今話したいこと、興味のあることを引き出します。子どもが伝えたい、教えたい気持ちを大切に、こちらは「あなたのことが知りたい」という姿勢で、子どもとの自然な対話を楽しみましょう。言いたいけれど言葉にならないところは、さりげなく拾い上げ示してあげます。話の中で子どもにもわからないことが出てきたら、お母さんに聞いてみることを提案しましょう。お母さんと一緒に考えることで自分が知らない母文化を知り、国や親、自分自身を誇りに思い、アイデンティティーの確立につながります。

2. 新聞を作る。

子どもの体験(エピソード)に基づいた、対話の結果としての新聞を作ります。

・内容は欲張らず、テーマを絞ってシンプルに作りましょう。タイトルを選ぶ時なるべく具体的に。「たべもの新聞」という大きなテーマではなく、「バナナ新聞」や「カレー新聞」、「たからもの新聞」ではなく、「石新聞」「ビーズ新聞」

とした方が、よりその子らしさが出ます。自分が持っている国のステレオタイプでテーマを押し付けないようにしましょう。国のことだけでなく、その子のその時の興味、関心に合わせることが大切です。

・新聞は図鑑ではありません。インターネットで見つけた記事や写真を並べて作っても意味がありません。自分の体験した内容や実際に家族が撮った写真、子どもの描いた絵などを使うようにしましょう。

・出来上がった新聞を読み、ひらがなや日本語の間違いをチェックし直すのではなく、「へえ～面白い!」「先生も知らなかったな!」などという声掛けをお忘れなく!先生は編集者ではありません。一番の愛読者です。

・小新聞をたくさん作り、それが集まれば、夏休みの成果物にもなるでしょう。



オンラインで新聞作り



校庭のもっこく(木)が、学校のキャラクターになったんだって。

モルモットをだっこしたの。
ふわふわだったよ

いっぱいおしゃべりをして、私だけの新聞ができました!

・大人も一緒に自分の新聞を作りました。お手本のようにうまく作ろうとせず、楽しみながら作ることが大切です。子どもたちからいろんなアイデアをもらいました。

【発展】

クラス全体の活動につなげます。

・最初にその子が作った新聞を貼り、お手本として見せてもらいます。ただ貼るだけではなく、クラスの友だちが読みたくなる、作りたくなるような先生の声掛けや見せる工夫が必要です。

・ミニ図鑑づくり

新聞に限らず、小さな本にすれば負担もなく手軽に取り掛かれるでしょう。その子の日本語能力や、できることに合わせ、発展させてください。



自分の国の文字で書くと他にはない図鑑ができあがるでしょう。

「一日一問答ノート」のすすめ

読んだり書いたりすることは、聞いたり話したりするよりハードルが高い言語行動です。しかし読んだり書いたりする活動を行わなければ、その力は伸びません。

また子ども達は読みたくないものは読みませんし、書きたくないものは書きません。不特定多数に向けて書かれているものよりも、目の前の子ども個人に向けた質問や興味関心に合う内容だったら、読むこと・書くことに子どもたちは意欲的に取り組むかもしれません。

一日一問、子どもにとって意味のあるやり取りを、読んで書く。それが「一日一問答ノート」です。

これを毎日続けたら、やらないより、断然、力が付きますよね!だからといって、欲張ってはいけません。質問しているのは、一日一問。厳選した質問を考えましょう。

子どもの読む力や書く力のためだけに行うのではなく、やり取りを通してみなさん自身が、その子自身のこと、その子のルーツのある国について楽しみながら知っていきましょう。

●用意するもの

- ・A4 のノートを 3 分割にした 1 冊
- ・その子とやりとりしたい!という気持ち



大きいノートだと、ページを埋めなくてはいけないというプレッシャーがかかります。

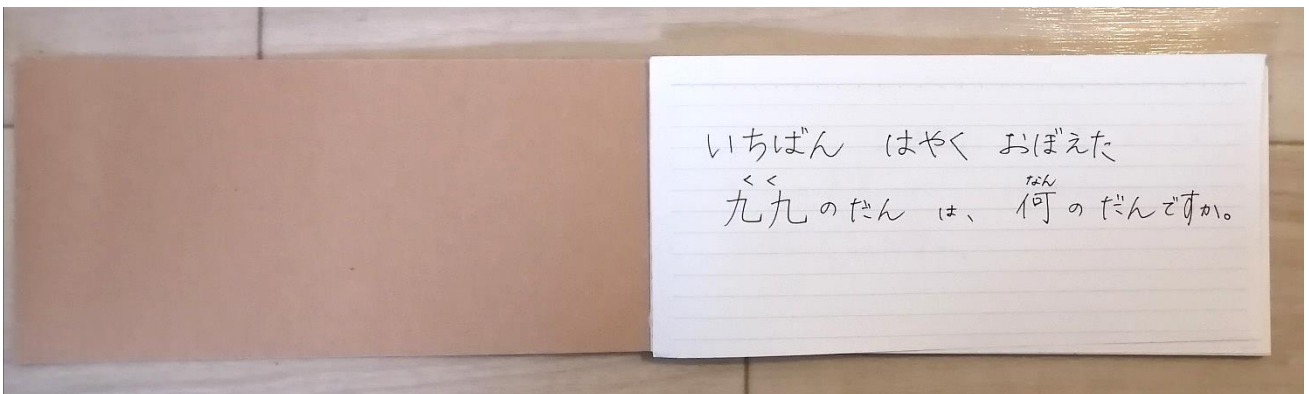
小さめのノートの方が、子どもは気楽に、そして特別感をもってとりくめるでしょう。

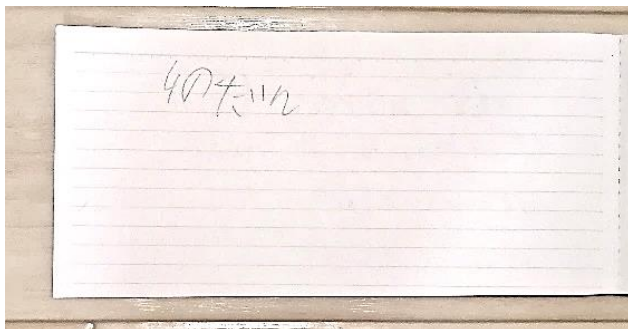
逆に小さすぎても、絵を描いたり文字を書いたりするのが難しいので、適度な大きさは必要です。

ノートをハサミで切るのは難しいので、裁断機などで切るといいでしょう。

●ノートの使い方

見開きの右側のページに、先生からの質問を書きます。質問の内容は、まずは目の前の子どもの生活に関するものや好きなものを中心に、簡単に答えられる質問がいいです。



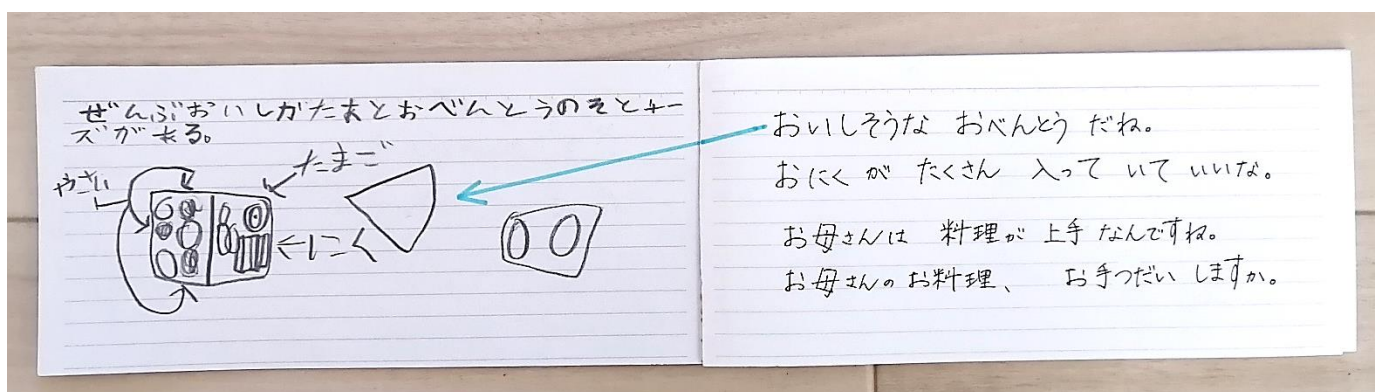


次のページの左側に子どもからの答えを書いてもらいます。

子どもは単語で答えてもいいし、絵を描いてもいいです。まずは、意味のある文、自分だけに問いかけられている文を読んで、答えを書く行為が重要です。

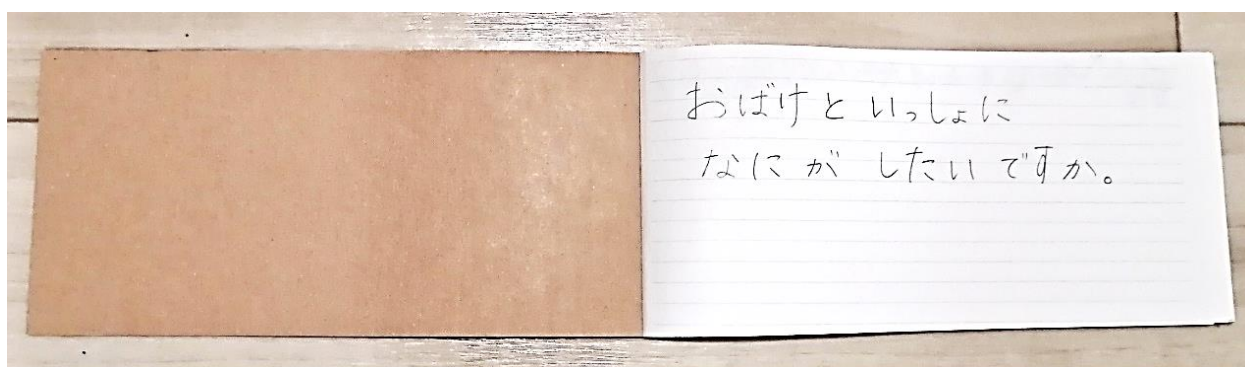
質問に対する子ども答えについて、線を引いてコメントを書いたり、さらに質問したりすることもできます。

お弁当がとっても嬉しい Y 君のノート

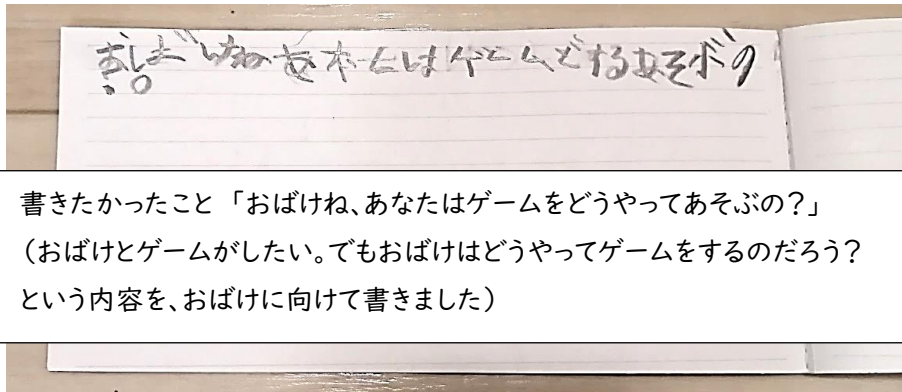


その子のレベルにあった答え方で OK です。無理して書かせるようにはせず、まず、「読むこと、書くことが楽しい!」と思ってもらえるやり取りを心がけましょう。

おばけに興味がある小 1 の R 君には、お化けに関連した質問をしました。



「なわとび」や「おにごっこ」などの答えを想定していたのですが、言いたい・書きたい気持ちをくすぐったように思いのほか、文章で答えが返ってきました。



●大切なポイント

- ・日本語の訂正は様子を見て行ってください。

右側のページに書く教師からのコメントで、子どもの書いたものを正しい文で繰り返すだけでも十分かもしれません。まずは、「書きたい気持ち」を育むこと、このノートでのやり取りを楽しむことが大切です。

このノートの目的は、子どもが書いた文章の間違いを見つけることではありません。先生との読み書きのやり取りを楽しむことが目的です。楽しくなってくると読んで書くことが続けられ、効果も出てくるでしょう。

- ・個人的な質問、例えば「今日は何時に起きましたか」「好きな食べ物は何か?」という質問やクラスで学習している内容に関する質問、例えば「 $0.3+0.4$ ができますか?」「今日学習した都道府県の中で、行ってみたい都道府県はどこですか?」など、いろいろなことについて聞くことができるでしょう。こういった学習に関連する質問もたまに入ると効果的かもしれません。試されるような質問は、子ども達は好まないので要注意です!

- ・たくさん聞きたいことがあっても、1日1問を目安に質問を書きましょう。

上手な質問の出し方について、考えてみましょう!!

どんな内容、どんな言葉の使い方で質問を出したら、目の前の子どもが「読みたい!」「書きたい!」という気持ちになるでしょうか。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

●応用・発展

・子どもから先生に向けて質問が出てきたら、嬉しいですね。

・担任の先生と子どもとのやりとりだけではなく、保健室の先生や教頭先生に子どもとやりとりしてもらうこともできます。子どもにとっては、日ごろ顔を合わせても、ノートを通し交流することは興味深く、楽しんで読んで書いていくことにつながるでしょう。

・絵で答えてもらったり、母語で書いてもらったりするなど、毎回、日本語で書かなくてもいいでしょう。

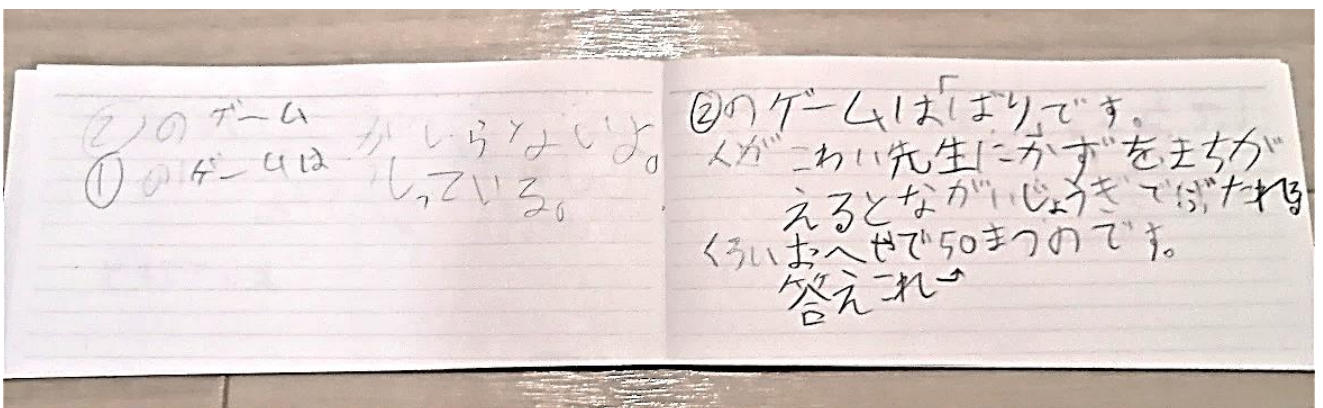
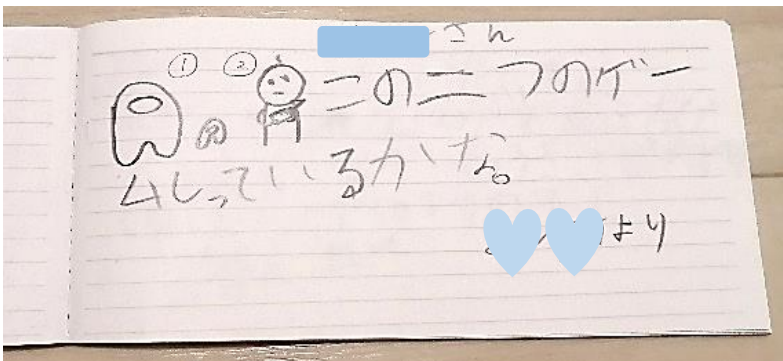
「先生の名前は〇〇語でどうやって書く？教えて！」というようなやり取りもできます。

わからなかったらお母さんに聞いてきてもらうなど、保護者を巻き込んだやり取りもいいですね。

・日本語指導員の場合は毎日学校に行くわけではないと思うので、ノートでのやりとりを毎日行うことはできませんが、指導の時間の最後に、その日、その子どもから発せられた発言などから、子どもが興味を持って答えたいと思わせる質問を考え、読んで書く時間にすることもできますね。事前に質問を書いておくよりも、“今日のその子”にあった質問を直前に書くほうが、子どもにとってタイムリーな質問ができます。

・また、日本語指導の対象が何人かいる学校でしたら、子ども同士の交流を促すこともできるでしょう。

子ども同士でノートに質問したり、答えたりするやり取りに発展しました。



大人とのやり取りだけでなく、日本語指導を受けている子ども同士のやり取りも「読みたい!」「書きたい!」につながります。その場合は、指導の時間帯が違うなど、会って話す環境になく「書く必然性があるか」どうかもポイントになります。

第4章 オンラインでできる活動のアイデア

まちがいさがし

画面共有の機能をつかい、間違いさがしをします。みつかると楽しいね～。

【ねらい】

分かった時には、自分から言いたくなるのは大人も子どもも同じです。日本語がまだ出ない子どもでも声を発したくなる活動内容です。言葉が出なくても、間違いを見つけることはできるし、子どもにとっては大人に勝つことができる楽しい活動です。

【用意するもの】

違いのある2枚の絵

【活動の流れ】

絵を見せるときに、2枚並べるのではなく、1枚を覚えて2枚目をみせる。

間違いを言う時は、口頭で言う。「最初は〇〇だったけど、次は●●になった。」「〇〇が●●に変わった。」など。

日本語で言えないときは、ペン機能を使って書き込んでも良いが、必ずこちらは日本語で言うようにする。

1. 1枚の絵を出して、その絵を覚えてもらう。(時間は30秒などと決めておく)
2. 大人も、子どもも一緒に覚える。
3. 2枚目の絵をだして、ちがうところを聞いていく。



地球っ子グループ M ちゃん作品

みなさんは、いくつ見つけられますか？ 2枚の絵の違いをどのように説明しますか？
どんな言葉が出てくるか、見つけられないときの声掛けなど、予測してみましょう！！

【子どもの反応】

- ・日本語がまだできなくても、参加できた。
- ・「わかった」「うえ」「そこ」など、簡単な言葉でも、やり取りができた。
- ・大人に勝つことができて、嬉しい。

【応用・発展】

- ・自分で絵を準備するときは、その子どもに必要な言葉を意識をした絵を作ることができる。
例えば、「色」を変えたり、「柄」を変えることによって、「赤、青や、水玉、ストライプ」などの言葉を自然に導入できる。また、「右から〇〇番目、上から〇〇番目」や、「かぶる、はく、着る、かける」なども絵によって、導入できる。
- ・中学生や高校生であれば、2枚のグラフから違いをさがすという活動もできる。
- ・大人であれば、若いころの写真を出して、変わったところを言うこともできる。（白髪になったとか）
- ・1枚の絵で、間違いを探すこともできる（右と左の靴が違うなど）。

どう発展させますか？目の前の人に合わせて考えてみましょう。

ピッタリの物、見せて教えて！

出されたお題にあった物を、家の中から探して持ってきてもらい、そこから様々な活動につなげる活動です。“自分のもの”を見せることで「説明したい」という気持ちが生まれ、それを生かして、うまく子どもからおしゃべりを引き出してください。たくさんおしゃべりができるようになることは、「書く」「読む」につながる大切な一歩です！

【ねらい】

- ・自分の家にある物・好きな物を見せ合い、質問しあうことで、互いにコミュニケーションをはかろう。
- ・進行役が子どもからおしゃべりを引き出すことで、様々な活動につなげていこう。

【用意するもの】

特になし

【活動の流れ】

この活動はお題を何にするかが、進行役の腕の見せ所です。「それ何？」「いつ使うの？」「どうして？」と会話が広がるきっかけになったり、その子の興味を知る足掛かりになったりもします。またグループでやることで、「何？」「私も持ってる！」など交流のきっかけになりますよ。進行役も「初めて見た！どうやって使うの？」「Aくんのお母さんに〇〇語で何て言うのか聞いてきてよ。」など、どんどん声をかけてくださいね。

活動例①＜“違い”を楽しむ＞

1. 進行役がお題を出し、それに合うものを探して持ってきてもらう。

例：「“冷蔵庫の一番好きなもの”を持ってきてください。」

2. 「せーの」で一斉に持ってきたものを出す。
3. 一人一人持ってきたものを見せて、みんなで自由にやりとりする。

「それ何？どんな味？どうやって食べるの？どこで買うの？」など、たくさんおしゃべり！

他の活動のアイスブレイクにも使えるね。

どうして、一斉に出す方法で発表するのかな？

活動例②＜簡単なクイズを作る＞

1. 進行役がお題を出す。それにあつたものを探して、子ども達に持ってきてもらう。

例：「3文字の物を持ってきてください。」

2. 持ってきた物でクイズを考える。

例：「真ん中の一文字はヒントにして、紙に書いてください。（「〇ん〇」と書いた紙を見せる）私が持ってきたものを何でしょう？」「ランプ？」「ぶぶー、赤い食べ物です。」

3. 進行役が新しいお題を出し、合うものを持ってきてもらう。例：

「5文字の物を持ってきてください。」

いろいろなものが集まりました。ランドセル、ドライヤー、マーガリン、せんめんき…。

Dくんの持ってきたものは？「油性ペン」「名前ペン」「サインペン」「〇ッキー」…全部同じ物？何が違う？

一斉に答えを見せるのとクイズにするの、子どもにとって何が違う？





Kさんが持ってきたのは、左のこれ。さーて、五文字なんだろう？「かぜぐすり」「じょうざい」「のみぐすり」「ガラスびん」・・・どれも正解！
1つの物でこんなにいろいろな呼び方があることがわかりました。

4. 進行役が新しいお題を出し、ブレイクアウトルームでそれぞれ答えを考え、全体で発表

「Hさんの好きそうなもの持ってきて」というお題では、「絵本」「お茶」「楽器」「お花」「マッサージ機」などなど。
どうして？「だってまえ好きって言ってたから」「前の活動の時、部屋に飾ってたの覚えてる」。え～！よく覚えてたね、
とこちらがびっくり！

「Dくんの好きそうなもの」を考えたグループは、手紙を書くのが大好きなDくんのために、メッセージカードを書いてくれました。友達が自分のことを考えてくれているとわかって、Dくんもうれしそう。

【子どもの反応】

- ・たくさん話したい。もっと説明したい。
- ・勘違いしている言葉や知らなかった言葉がわかった。

【応用・発展】

- ・お題を上手くいかせば、子どもたちが自然と学べる様々な発展活動ができます。

<発展活動例>

*おしゃべりのきっかけづくり

「自分にルーツがある国の物を持ってくる」や「Hくんが気に入りそうなものを考えて持ってくる」

*色や形を意識した活動

「赤いもの→白くて丸いもの→形に関する活動」

*測る活動

「手のひらぐらいの大きさの物→3cm だと思える物→実際に測る活動」

*地図を調べる

「好きなお菓子→お菓子に国や県の表示を探す→その場所を地図で確認」 などなど

どう発展させますか？ 目の前の人に合わせて考えてみましょう。

数字で遊ぼう！

数字カードを作りながら、また、作った数字カードで質問ゲームをすることで、数字を使った表現（年齢や誕生日など）が言えるようになります。

【ねらい】

- ・単調な数字を使ったやりとりも、手や頭を動かすことで楽しく学ぼう。
- ・活動を通じ、数字が理解できるようになろう。
- ・オンラインでも、全員が参加できる形で活動を行い、互いによく知り合おう。

【用意するもの】

- ・紙 2 枚
- ・ペン

【活動の流れ】

何度も自然な形で数字を聞いたり言ったりするような場面をつくれます。

いろいろな質問をだし、答えだと思ふカードを挙げてもらうゲームをし、楽しく数字に触れる機会をつくれます。

1. 数字のカードを作る

「2 枚の紙を重ねて、紙を半分に折ります。できましたか？」と少しずつ確認しながら 1 枚の紙から、8 つのカードが作れるように折れ線をつけていきます。こちらから何も言わなくても、「1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8。8こある!」と数える子どもたち。「それが 2 枚あるってことだから、全部で 16 こ!」言わせなくても、自然に数字が出てきます。

16 枚できたカードに数字を書いていきます。「まず 1 つ目のカードに 0 って書いてください。」

「次は…」「いち!」「そう、いちです!」数字の言い方がわかる子は積極的に答え、日本語の数字の言い方がわからない子はここで自然と覚えます。

2. 数字カードが作れたか、確認する

12 まで書いたら、「0 のカードある? あったら見せて」ともう一度、意識的に日本語での数字の言い方を確認。数字を見せて、「これは何ですか?」と言わせるよりも自然な形で数字と日本語での言い方を確認していきます。



「4 のカード、ありますか? あったら、見せて」

3. 質問・クイズ

- ①誕生日は何月ですか？
- ②キャンディー、何個つかめるでしょう？
- ③マトリョーシカ、何人出てくるでしょう？
- ④〇〇さんの家に、卵は何個あるでしょう？



ポイントは知識を問う質問ではないってところ！

絶対的な答えがない質問を考えましょう。

「 $12 \div 3$ は？」「学校の「学」は何画？」「リンカーンは何代大統領でしょうか？」

こういう質問は話が広がらないから、つまらない…。

「何月生まれですか？」

4. ブレイクアウトルームでグループにわかれ数字クイズを考える

5. 全体で数字にまつわるクイズを出し、全員が答えをカードで示す

「私の部屋にクリスマスの飾りがいくつあるでしょう？」

「この箱の中にチーズは何個あるでしょう？」なんと、答えはゼロでした!!



6. 参加している子の言葉で数字の言い方を教えてもらおう！

【子どもの反応】

・「1」と書けているのが見えているのに、「1」が書けましたか？と聞くのは不自然なやりとりですが、オンラインならではの特徴を生かし、繰り返し数字を聞いたり、言ったりする機会を作ることができます。

・みんなが楽しく参加できるゲームの質問を考えるときにはポイントがあります。いくら自分が好きなものでも、みんなは知らないなら、話が広がらず、つまらなくなってしまう。大人のコントロールも必要なことがありますが、みんなできやりとりしていく中で、参加しているみんなが考えたいような質問づくりができるようになっていきます。

【応用・発展】

・作った数字カードを活用して、年齢をあてっこするなど、数字をテーマにした話ができます。

・自分が目をつぶって選んだカードの数を、みんなからヒントをもらってあてるなど、数字カードでいろいろな遊びを考えることができます。

どう発展させますか？ 目の前の人に合わせて考えてみましょう。

おじゃましまーす

家の中を画面越しに案内し、子どもたちは実際に遊びに行った気分になります。

【ねらい】

- ・実際には行けない家にお邪魔する、わくわく感を味わう。
- ・訪問した家にあるものを見て、「同じ!違う!」を楽しむ。

【用意するもの】

- ・紙とペン

【活動の流れ】

イメージしやすい生活空間である、居間やキッチン、洗面所を案内する。ほどほどに物を出して置き、生活感を出すことがポイント。

1.活動の説明をする。

「これから私の家を紹介します! どんな家だと思う?」

「どんなものがあるかよく見てね。みんなは何も言わないで!あとで聞くからね。」

2. 進行役が簡単に説明しながら家の中を案内する。

① いらっしゃい!
これから家の中を案内します



② どうぞお入りください。



③ 帰ってきたら、こ
こで手洗い、うがい!



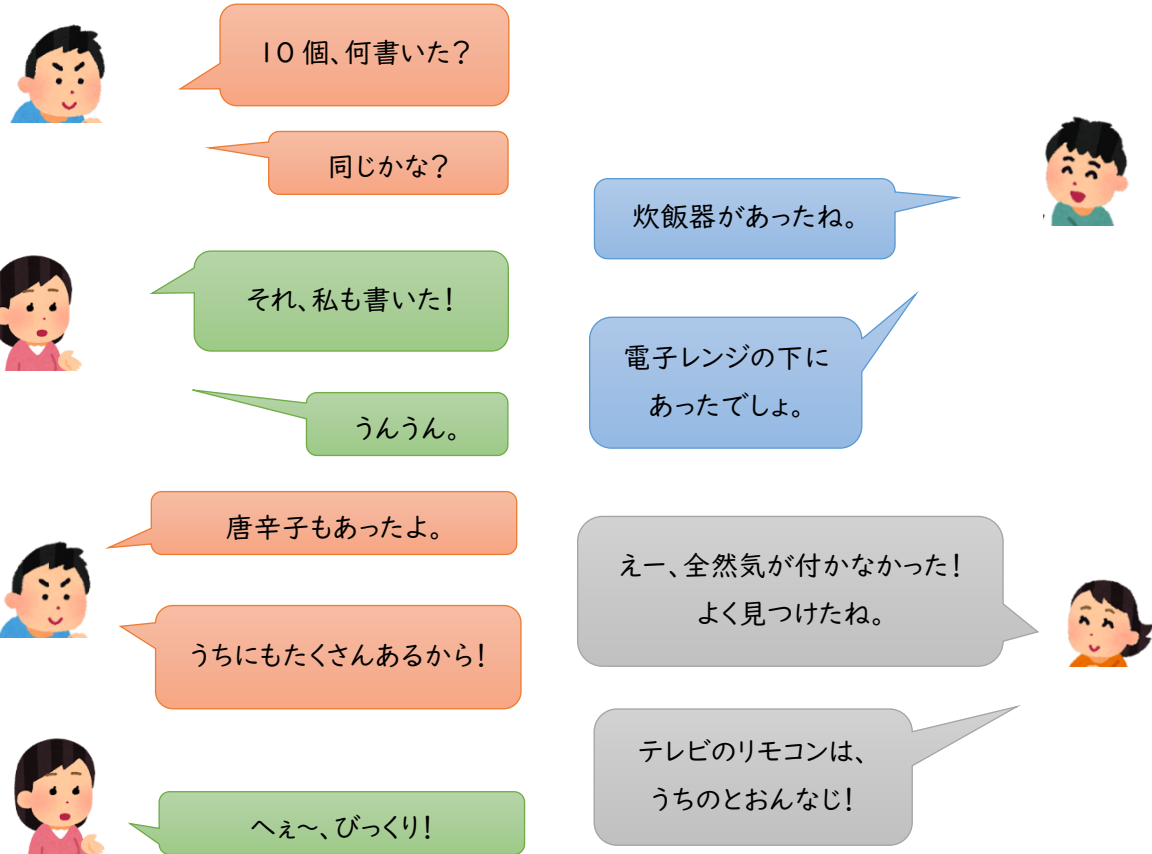
⑤ テレビを見たり、本
を読んだりします。



④ ここでご飯を作ります。

3. 見つけたものを、紙に 10 個書き出す。
書き出した後、ブレイクアウトルームに分かれる。

4. ブレイクアウトルームに分かれてグループのメンバーと話し合う。

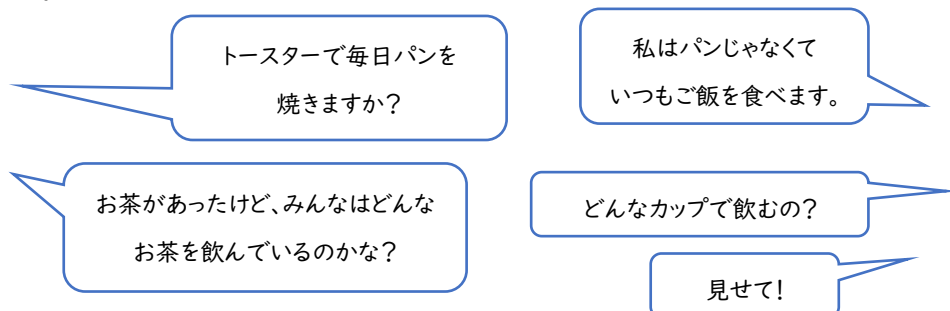


同じものでも家にあるものと色や形が違っていたり、初めて見るものがあったりと、いろいろな発見があった様子。知っているけど名前がわからないものは、グループの友だちにおしえてもらったりしながら、みんなで話し合います。

★日本語のレベルに合わせ、部屋ごとにいろいろな活動が考えられます。

「おんなじものあった? ○○ちゃんのも見せて!」と、実際に持ってきてもらったり、「あれは何に使うの?」「だれが使うんだろう?」と話し合ったり、インターネットで使い方を調べたりと、子どもの力に合わせて活動を考えます。

5. メインルームに戻り、それぞれのグループで話したことや、もっと聞きたいことなど、たくさんおしゃべりする。さらに話が広がります。



【子どもの反応】

- ・興味津々で、前のめりになって見ていた。「次は〇〇さんの家にしよう。」「本当に遊びに行ってもいいですか？」などといった話が出てきた。
- ・自分の家の物を見せたいくなり、どんどん物を持ってきて見せてくれる子、洗濯機を見つけて、自分の家での洗濯の手順を絵でかいて説明してくれた子もいた。
- ・一緒に参加していたママが、ブレイクアウトルームで他の子のランドセルを見つけ、入学準備に話が発展。先輩小学生の子どもたちが、入学前の親子に学校で使うもの（実物）を見せ、使い方を紹介することができた。



【応用・発展】

- ・案内している時に、黙って見てもらうのではなく、自分の家にあるものを見つけた時にすぐに言ってもらおう。
- ・参加している子どもたちが、進行役に代わって紹介する（実況中継のように）。
- ・テーブルの上など、範囲を限定して行う。
- ・進行役の知らなかった一面で気付いたことを話し合う。趣味や生活の様子など。

どう発展させますか？目の前の人に合わせて考えてみましょう。

あとがき

私達は今まで多文化の親子と関わって来て、接する人の対応が子どもの成長や保護者の活躍に大きく影響するのを見てきました。私たちが受け取った大切なことをみなさんにも知ってもらいたいと思い、この本を書き始めました。

特に、外国ルーツの子どもの教育にあたる人たちは専門的な知識や技能は当然、必要です。それだけでなく、まず自分の目の前にいる子どもがどういう子どもで、どう接するかを考えられる力が大事です。そしてそれは子ども達だけではなく、保護者も含めた大きな観点で、そして長い視点でとらえていくことが大切です。

生活者としての外国人が増えている昨今、みんなが心地よく過ごせる地域・学校を作っていく時、ちょっとだけ視点を変えれば、いい方向に変わっていくでしょう。

「今日から一緒に〇〇!」、みなさんだったら何ができそうですか。「今日から一緒に勉強しよう」「今日から一緒に同じ地域の仲間になろう」「今日から一緒に楽しもう」。何でもいいのです。今日から一緒に何か始めましょう。そしてそのためには、彼らに関わる私たちが「今日から一緒に意識を変えてみよう」という気持ちが必要なのではないのです。

私たちは「今日から」という気持ちでスタートしました。はじめは隠れていた魅力が日に日に出てきて、教えてもらうこともたくさんありました。気が付けば何年も楽しい時間が過ぎていきます。

外国ルーツの子ども達一人ひとりが持っている多様性を活かし、関わる私たちが連携して、子ども達が日本社会で活躍できる環境を作っていきましょう。

いろいろな意味が取れる『今日からいっしょに』、是非、ご活用いただければ嬉しいです。

日本で暮らす子ども達みんなの健やかなる成長を願って…

高柳なな枝

井上くみ子

芳賀 洋子

五十洲 恵

ジュラノフちひろ

地球っ子グループの仲間たち

編集後記

教材作成過程は、今までの自分の活動を振り返り、反省し、新たな気づきが生まれた時間でもありました。

かつて、ママは日本語が通じないからと目の前の子どもにだけに必死に向き合っていました。文字を覚えさせることで指導が成功したと思っていました。指導本を何冊も読み漁りました。それだけでは思うような指導ができず、ヒントを探していろいろな講座に参加しました。

そんな時に地球っ子グループに出会って、目からうろことはこのことだと思いました。ここには楽しい主体的な学びの場があり、子どもも親もスタッフもいきいきと活動しています。互いに尊重し合い、一人ひとりの子どもとしっかり向き合う。親と向き合う。仲間とつながる。そして一緒に楽しむ。みんな笑顔でいっぱいです！ その様子は本書からも感じていただけたと思います。

2020 年 3 月 五十洲恵

編集後記

今回の改訂版には、第4章にオンラインでの学習支援が加筆されました。オンラインでの学習支援は 2020 年に起こったコロナパンデミックの影響を受けています。さまざまな混乱や不安がある中、私は地球っ子グループの活動で初めてのオンライン学習支援に参加しました。そこで画面越しに並んだ子ども達の顔に、ほっとしたのを覚えています。初めてのオンライン活動にとまどいもありましたが、子どもの笑顔や成長ぶりを目にするにつけ、活動を止めないことの大切さを感じました。オンライン上でも地球っ子の活動の姿勢は変わりません。みんな楽しんで、発見と笑顔でいっぱいです。ぜひみなさんも「今日からいっしょに」！ 本書でつながってもらえれば嬉しいです。

2021 年 3 月 ジュラノフちひろ

編集後記

地球っ子クラブが始まってから22年。その間、多くの子どもたちに出会いました。自分のことや家族のことを一緒に話したり考えたり、また、いっしょに活動して困ったり笑ったりする中で、私たち自身が気づいたことや教えられたことがたくさんありました。イメージあそびや言葉あそびはじめ、この本で紹介したものは、みんな、子どもたちやお母さんたちと一緒に活動する中から生まれて形になったものです。そして、そこには、子どもたちやそのお母さんたちから受け取ったメッセージがちりばめられています。

今、私たちの目の前にいる子ども達はみんな、これからの日本を共に作っていく子どもたちです。この子どもたちが「両方の国を愛せる子ども」に育っていくためのキーワードが「おなじって嬉しい!ちがうって楽しい!」。これも一緒にたくさん話をする中から生まれた地球っ子グループの大切な合言葉です。

子どもたちと一緒に作ったこの本と、この合言葉をもっともっと学校や地域に届けていきたいと思っています。たくさんのことを教えてくれた地球っ子の仲間感謝しつつ、この本を読んでもらった皆様とともに、子どもたちにとって、よりよい環境づくりのために学び合って行けることを願っております。

2022 年 3 月 芳賀洋子